

第2回千葉県俳句大賞・贈賞式 第31回協会賞

五月二十一日、千葉市のホテルプラザ菜の花において、千葉県俳句作家協会の総会に先立ち第二回千葉県俳句大賞及び第三十一回協会賞の贈賞式がおこなわれました。俳句大賞は当協会が、昨年から設けたもので、千葉県内には中央俳壇に更なる文芸の飛躍を目指し活躍をされ、句集刊行などにより特に優れた功績をあげられた方々を選考し、県民文学活動の充実発展へ向けて推進力を発揮された方を顕彰するもので、第一回俳句大賞はこの度、公益社団法人俳人協会の会長に就任された大串章氏が受賞されました。第二回の俳句大賞は句集『文様』、柏市在住の現代俳句協会副会長で「らん」発行人の鳴戸奈菜氏が受賞されました。鳴戸氏は句集の「あとがき」で「句集の終りのほうに「秋暑し俳句は好きかと問われけり」「好き」と句を収めたが、もし私が問われたら、「好き」と答えたい。歳を重ねても俳句と付き合ってゆけたらと思う」と述べておられる。

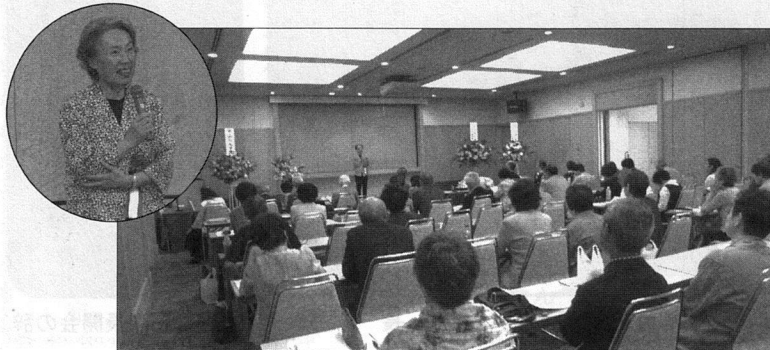
準賞は句集『間取図』広渡敬雄氏、奨励賞は句集『銀の笛』栗原公子氏が受賞されました。又、第三十一回の千葉県俳句作家協会賞は、我孫子市在住の原瞳子氏が受賞されました。

真木

第 182 号

〒261-0004
千葉市美浜区高洲
1-14-9-503
田所節子方
千葉県俳句作家協会
事務局
TEL 043-277-1056

〒299-1143
君津市君津台 2-8-4
石井紀美子方
「真木」編集部
TEL 0439-52-6254



贈賞式会場風景 俳句大賞受賞の鳴戸奈菜氏謝辞



受賞者記念撮影

後列左より 平野 (協会賞佳作) ・岡本 (佳作) ・浅野 (佳作) ・中山 (次席)
前列左より 会長 ・原 (協会賞) ・鳴戸 (俳句大賞) ・広渡 (準賞) ・栗原 (奨励賞) の諸氏

目 次

第2回千葉県俳句大賞・第31回協会賞贈賞式……………13
平成二十九年通常総会開催……………12
第2回千葉県俳句大賞受賞者のことば……………11
第三十一回協会賞受賞者のことば……………10
第3回千葉県俳句大賞・第32回協会賞の作品募集……………9
千葉県俳壇ニュース……………8
結社賞、会員著書紹介……………7
受贈誌より、ひろば……………6
第59回千葉県俳句大会作品募集、秋季吟行会のご案内……………5
平成29年度千葉県俳句作家協会役員、新入会員一句、事務局日誌……………4

13121110876521

平成二十九年 通常総会開催

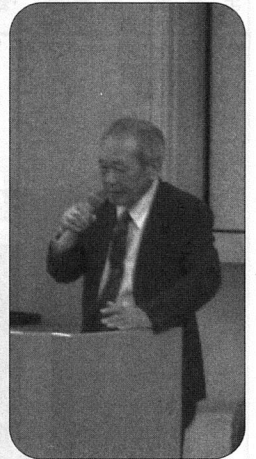
平成二十九年通常総会が五月二十一日(日)午後一時より、千葉市「ブラザ菜の花」において開催された。午前には昨年度より設けられた第二回「千葉県俳句大賞」、第三十一回「協会賞」の贈賞式が行われた。総会は、出席者六十二名、委任状二九九名合計三〇一名(会員数四一〇名)で、川合副理事長の総会成立宣言により開会された。塩野谷副会長の辞に続き、能村会長より、「会員数は四〇〇名台を維持しているが、高齢化の中、千葉県全体の俳句活動が、現代俳句協会、俳人協会、伝統俳句協会の枠組みを超えての各結社および支部句会の皆様の参加により、年間の活動・交流を行うことができました。

今後は更に、県下各地区の俳句連盟・協会員の参加も得て、千葉県の俳句作家が増えるように広報活動も強化していきたい。また『千葉県俳句大賞』『協会賞』も、参加者の増加に力を入れていきたい」旨の挨拶があった。

会長が議長を務め、議事に入った。平成二十八年度事業報告が田所事務局長より、同収入支出決算報告が染谷事務局次長より行われ、引き続き会計監査報告が荒木監事よりあり、異



総会の議長 能村会長



塩野谷副会長開会の辞

議なしで承認された。続いて二十九年事業計画及び予算案が提示された。収入が若干の減であり、会員増、広告費等の対策の実施が提示され、予算は承認された。最後に二十九年、三十年度の役員案が提示され、改選された。

総会は、三枝副会長の閉会の辞で終了した。

(北川昭久記)

俳句会

通常総会の後、恒例の「俳句会」が開催された。出句は当季雑詠二句、出句総数は一二六句。司会進行は川合副理事長。披講は荒木(洋)、菅谷、村上各理事が担当し、名乗りが会場に響き、活気ある句会となった。俳句会の最後に、特選選者の鳴戸奈菜氏他より入賞作品の講評があり、今後の句づくりは大いに参考になった。最後に賞品が授与された。

成績は後記の通り。

(北川昭久記)



俳句会風景



能村会長と記念撮影
俳句会一位の川合憲子氏

俳句会作品集

特選句

来賓 鳴戸奈菜特選

田を植えてつくづく今日を見ておりぬ

石井紀美子

能村研三会長特選

電車にも片陰のあり片寄れり

内山 花葉

三枝かずを副会長特選

噴水の空に憧れつつ崩る

田中 賀子

増成栗人副会長特選

捕植して植田の水の青さかな

平山 武彦

塩野谷仁副会長特選

春深し仏壇の中にも時間

川合 憲子

川合憲子副理事長特選

都忘れ我もこの地に根を張りて

川俣婦美子

田所節子事務局長特選

電車にも片陰のあり片寄れり

内山 花葉

互選結果

○内数字は総合得点順位、同点の場合は一句高得点特選を優位とする。() は二句合計による得点。

① 落ちることばかり考へ紅椿 川合 憲子 (15点)

② 春深し仏壇の中にも時間 田中 賀子 (11点)

③ 噴水の空に憧れつつ崩る 田中 賀子 (11点)

④ 麦の秋戻るべき道捜しをり 石井紀美子 (10点)

⑤ 薔薇の夜罪の匂いのふとしたり 塩野谷 仁 (9点)

⑥ 田を植えてつくづく今日を見ておりぬ 高橋 健文 (9点)

⑦ 常の日の常の夕ぐれ蛍袋 榎 良松 (8点)

⑧ 落日に力ありけり朴咲けり 平岡 育也 (8点)

⑨ そら豆の莢剥きミサイルの話 藤岡 貞夫 (8点)

⑩ 五月鯉泳がず少子化の加速 倉岡 けい (8点)

⑪ 夏の蝶影を失なう高さまで 袴田 菊子 (8点)

⑫ 蓮浄土家族写真の中にかな 新緑や身のやわらかにほぐれける 袴田 菊子 (8点)

⑬ 額縁のことばの塔に夏の雲 初夏の風のひとりとなりゆく 内山 花葉 (7点)

⑭ 青空のハンカチの木は風の耳 電車にも片陰のあり片寄れり 滝口 滋子 (7点)

⑮ 水滴ちて植田に力充ちてくる 老幹は蛇身のうねり藤の花 山崎 幸子 (7点)

⑯ 米量る米の温もり柿若葉 新緑や身のやわらかにほぐれける 山崎 幸子 (7点)

⑰ おとうとが故郷へ来ぬかと花茨 初夏の風のひとりとなりゆく 山崎 幸子 (7点)

⑱ 湧水をさかのぼりゆく蛇白し 膝小僧のえくぼ澁刺ころもがへ 山崎 幸子 (7点)

⑳ 夏は来にけり口中の薄荷飴 湧水をさかのぼりゆく蛇白し 山崎 幸子 (7点)

㉑ 筍を掘りわが影も掘り起す 山崎 幸子 (7点)

⑭ 安曇野の風聴きに来よ旧端午 原 瞳子 (6点)

⑮ どこか揺れどこか零れてえこの花 金子日出子 (6点)

⑯ 蜘蛛紡ぐ世界遺産の垣根かな 岡本 秀子 (6点)

⑰ 幾度も潜る隣家の薔薇アーチ 峰雲やごはごは乾く柔道着 谷本 元子 (6点)

⑱ 解く紐の濡れしままなり笹粽 一塊となりて一樹のこぶし咲く 平野みち代 (6点)

⑳ 水羊羹江戸の古地図の包み紙 セ・シ・ボンといふ名の茶房レモン水 加藤 峰子 (6点)

㉑ こんな坂本気のペダル万緑へ かはせみの嘴一瞬に沼を裂く 佳田 翡翠 (5点)

㉒ 草笛に白雲流れゆきにけり 青嵐やいつも何かをさがしてた 佳田 翡翠 (5点)

以下得点略(二句のみ掲載)

足音のしばし先行く蜥蜴かな 松本よし彦 (5点)

草に水かくれて流る花ぐもり 染谷 卓 (5点)

ががんぼのはたりはたりと共謀罪 村上喜代子 (5点)

雲梯の思はぬ低さ揚雲雀 石橋みちこ (5点)

どっこいしよは老いの戯言夏は来ぬ 三枝 青雲 (5点)

やがて伐る桜の下の地鎮祭 三枝かずを (5点)

新緑の一木一草新世界 川崎 直子 (5点)

蚕豆は福耳に似て茹で上がり 北川 昭久 (5点)

中学校ぐるり三辺姫女苑 荒木 甫 (5点)

月涼し切絵のやうなビルの街 田所 節子 (5点)

更衣ころの弾む会ありぬ 菅谷たけし (5点)

筍一本すずめのお宿辞して来る 荒木 洋子 (5点)

偏照りのあとの偏降り青胡桃 能村 研三 (5点)

ジーパンも靴も穴穴青嵐 中村 世都 (5点)

太古より山河は揺れる草茂る
都忘れ我もこの地に根を張りて
食卓の会話にぎやか野蒜食ふ
老鶯のリズムに合はせ二百段
車窓から房総台地けふ小満
薔薇園に光まきゆく散水車
犬吠の沖は外つ国卵波立つ
色々の恋して老いて濃紫陽花
捕植して植田の水の青さかな
速雷や蕎麦屋にジャズを聞く昼餉
銀座四丁目気後れの姫女苑
少年の磨くグローブ若葉風
箸袋折りて箸置き柿若葉
ままごと男の子もあたり花みかん
緑さす水飴の糸巻きさくぐる
鶯草や一緒に飛んであげやうか
玉音のぼつんと亡父麦の秋
大利根の橋いくつ越ゆ雲の峰
林立の筍雲へ雲へかな
青蛙跳んで子規球場の雨
心まで透かすさみどり新茶汲む
さかん気なままに夜の来る花石榴
柏餅いちまいの葉に山と谷
螢火の消えて北斗の位置決る
若松に安房の怒涛の力水
迷い橋別れ橋ほたるゆうらゆら
花茨街に煉瓦の料理店
天平の塔の礎石や若葉風
薔薇の垣かがる跳べた筈なのに

細根 栞
川俣婦美子
重城 彌生
浅野 吉弘
上田 玲子
栗原 公子
本池美佐子
鳴戸 奈菜
平山 武彦
宇根 幸子
中山 和子
菊地 光子
広渡 敬雄
茶谷 静子
楠原 幹子
丸田 和子
門谷 杜人
清水佑実子
夏目 当代
増成 栗人
鈴木真砂枝
望月 百代
佐藤 映二
白鳥紅星子
渡部 節郎
藤井 元基
前北かおる
伊藤 隆
徳吉洋二郎

(加藤峰子記)

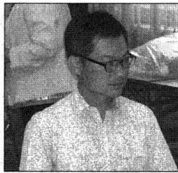
懇親会

俳句会後、川台副理事長、北川理事の司会進行で、懇親会に入った。

始めに能村会長の挨拶、続き一番若い昭和五十年生れ、三十九歳の新理事前北かおる氏の乾杯の音頭で歓談に入った。その後改めて、能村会長から、第二回千葉県俳句大賞に対しての祝辞があり、大賞の鳴戸奈菜氏『文様』について、「意味と内容をユーモラスなセンスも込めて、重層的に詠った句集」。準賞の広渡敬雄氏『間取図』について、「万感をものに託して身辺をヒューマンに詠った句集」。奨励賞の栗原公子氏『銀の笛』について、「普段の暮らしの中の瞬時を清新な感性でとらえた句集」とそれぞれの作品の講評があった。

受賞の鳴戸氏は「俳句が好きです。他に趣味もなく、うちで一人で出来るのがいいのです」と、にこやかに感謝の弁を述べられた。

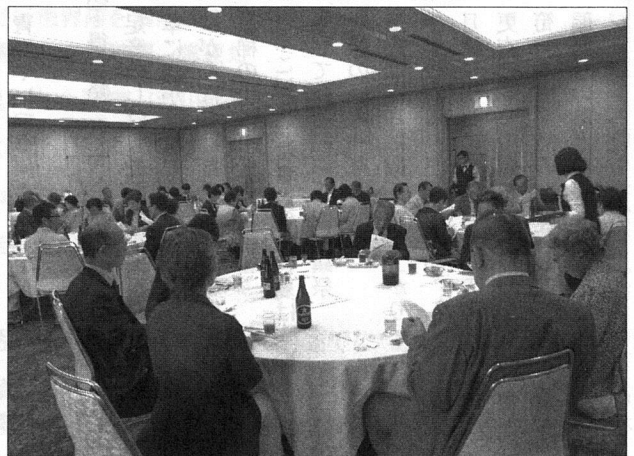
準賞の広渡敬雄氏、奨励賞の栗原公子氏からもお礼の言葉があった。



新理事の
前北かおる氏



前列右・新理事の望月百代氏



懇親会風景

第三十一回協会賞について、三枝副会長から祝詞があり、受賞の原瞳子さんは、「俳句は全てを忘れさせてくれる、我孫子発伊豆行きの直通電車での伊豆への三回の吟行が今回の二十句の背景です」との話があり、次席の中山和子さんは、今回所属結社「初蝶」の主宰が亡くなり、急遽代表を務めることになったことへの励みになるとのお礼の言葉があり、佳作の方々からお礼の挨拶があった。その後は、会員の交流と歓談を中心に進行し、大いに懇親が進められた。中締めは、増成副会長による一本締めで、お開きとなった。

(北川昭久記) (撮影一頁) 松本よし彦・細根栞

第二回千葉県俳句大賞 受賞者のことば

大賞 鳴戸 奈菜

この度、思いもかけず、拙句集『文様』が第二回千葉県俳句大賞を得まして驚きました。厚くお礼を申し上げます。

振り返りますと、三十二歳のとき、偶々新聞に掲載されていた永田耕衣の句に強く心を魅かれ、すぐさま耕衣主宰の『琴座』の門を敲き、以後、耕衣がこの世を去るまで門人として在籍し、俳句観は言うに及ばず、人生観・世界観に大きな影響を受けました。

また当時、清水径子さん、中尾寿美子さん等と月例会を持ち具体的な指導を受けました。

現在は発行人を務めております同人誌「らん」の仲間の中で励まされたりライバル心を掻き立てられております。つまり終始、俳句が好きでならぬ人達との繋がりの中で句作を続けて参りました。有難いことです。

大賞を頂戴しましたこと、嬉しい重荷と考え、句作への情熱を掻き立てて頑張りたいと思います。

いえ頑張るといふのは俳句に合いませんですね。できましたら生涯、元気で俳句に携わっていたく存じます。俳句が好きです。

準賞 広渡 敬雄

千葉県に住んで今年で丁度四十年。結婚四十年でもある。俳句を始めて二十九年目だから、それよりずっと長い。

今般第一回千葉県俳句大賞の大串章先生、第二回千葉県俳句大賞の鳴戸奈菜先生という大家に陪して準賞を受賞出来た事を大変光榮に存しています。

十五年前に家を新築の際、競いあう建設会社の一社が、当時短大生だった長女の部屋に無料で出窓を付けますと、間取図に出窓を書き加えた。

結局それが決め手となり、その会社に建築を任せたが、その折の句が(間取図に手書きの出窓夏の山)。季語は当初の「青嵐」から、生来の山好きのため、「夏の山」と変えたが、角川俳句賞受賞作のテーマ句となり、本句集名も『間取図』とした。

これまでの多くの登山の過程で、崩壊した林道、荒廃した広大な杉や檜林、限界集落となった山村と共に森と接する田畑が放置されて雑草が繁茂し、熊・猿・猪・鹿が跋扈している現状をつぶさに見て来ていつも心を痛めている。

これからは、自然への畏敬を持ちつつ自然と人間の営みの有り様と共生の大切さを次の句集のテーマに据えて精進していきたいと思っている。

私の千葉県俳句大賞準賞受賞に対し能村会長他選考委員の方々に心より感謝申し上げます。

奨励賞 栗原 公子

遅い俳句との出会いでありました私にとりましては自分の句集を持たただけで充分に幸せな事であり、賞の対象になるなどという事は夢にも考えられないことになりました。

子育てや親の介護を終え自分の時間を埋める為にと始めましたカルチャーセンターの俳句教室への入会が、これほどまで俳句にのめり込んでしまう事になりましたのも不思議な気がいたします。思えば無知ゆえの怖いもの知らずで、身の周りのあれこれを手当たり次第に五七五のリズムに乗せる面白さに夢中になりました初期からの十三年間を纏めました拙い第一句集でございます。

今回の受賞は拙いながら一生懸命俳句に取り組んでまいりました日々を認めて頂けましたような嬉しさに心が震えました。たった十三年間の私の第一句集は何と幸せな句集になった事でしょう。俳句の奥深さ難しさにたじろぎ始めました近頃の私に「活」を入れてくださる為の「奨励賞」であるのだと有難く受け止めております。

まだ見ぬ明日まだ見ぬ俳句に出会う事が出来ますようこれからも真摯に俳句に向き合い、受賞に恥じる事のないように精進してまいります。

第31回協会賞

受賞者のことば

協会賞 原 瞳 子

この度第三十一回協会賞を賜り嬉しい限りです。選者の先生方に深くお礼申し上げます。

二つの偶然も重なって、この賞を戴ける事になり誠にラッキーでした。我孫子、伊豆下田間を、乗り換え無し、全指定席の踊り子号が走行しているので、気軽に何回も吟行が出来た事です。

出来る限り街並みを写生しようと、案内図を頼りにして、通りすがりの人に訊ねたりして四十句以上は作りました。集中して作句している間は賞の事などすっかり忘れて歩いては作句、作句しては歩いての連続でした。大方の街並みは覚えてしまいう位でした。帰宅後は一句、一句を短冊に書き何回も差し換えて推敲をしました。

「一連の作品から物語が紡げるように、水が流れていく様に構成するのですよ」と亡き師から教えられた有難さが身に沁みました。

もう一つの偶然は、我孫子市俳句連盟の会長である染谷卓先生が会議の折「こんなのがあるよ。応募してみたら」と声を掛けて下さったことです。その時の私は応募する気は全くなく、応募書類な

どは全部捨ててしまっていて、先生にファクスして戴きました。有難い事です。

この協会賞を、今は亡き師、「初蝶」の主宰であった小笠原和男先生、田部谷紫編集長への手向けの花としたいと思います。

協会賞次席 中山 和 子

この度は第三十一回協会賞、次席にお選び頂きありがとうございます。

応募作「まんだら堂やぐら群」は神奈川県逗子市にあり、文字通りやぐら群、立体墓地群である。ここを紹介した一面写真付きの新聞記事を見た途端魅せられ、矢倉の内外に咲く曼殊沙華に取り憑かれた。時に平成二十七年十月。此処は逗子市が管轄し年に三回期間限定で公開しているという。この年所属結社の大会など重なり行けず、句友を誘い吟行したのは翌平成二十八年十月である。すでに曼殊沙華は終わっていて天高くよく晴れた日で初見の新聞で感じたようなおどろおどろしさはなく少しがっかりしたことを覚えている。

その頃結社は、編集長、主宰を相次いで失うという事態が発生。結社誌の廃刊という事態もあり得たが創刊主宰を知る数少ない生き残りの一人として存続の先頭にたった。今回一位受賞の原瞳子さんは同じ結社で同じ生き残り組である。共にこの難局を乗り切ってきたという思いがある。

今回の受賞はそんな二人を応援してくれた様でうれしい。有難うございました。

第31回 協会賞入賞作品審査表

(改訂版)

(応募作品 23篇)

番号	表 題	成 績	審 査 員 査 定 順 位							得点	作 者 名	住 所	所 属 結 社			
8	初 蝶	協会賞	1	4		1	1	5	4	4	4	24	原 瞳子	我孫子市	初蝶、清の會	
12	一張羅めきて	佳 作				2	5	2		3	2	16	平野みち代	千葉市	鳴、柁	
20	秋 夕 焼	佳 作			1		2	4	1	5		17	岡本 秀子	千葉市	沖	
22	龍 の 髭	佳 作	5					3	3	1		12	浅野 吉弘	千葉市	沖	
23	まんだら堂やぐら群	次 席		3	1	2				2	2	5	21	中山 和子	千葉市	初蝶
審 査 員 (50音順)			秋尾 敏	川合 憲子	三枝かずを	塩野谷 仁	染谷 卓	田所 節子	外丸 和弘	能村 研三	増成 栗人	村上喜代子	【採点】 1位=5点 2位=4点 3位=3点 4位=2点 5位=1点			

▼訂正 前号(二八一号)6頁、第31回協会賞入賞作品審査表の審査員査定順位に、採点を記入のミスと、中山和子氏の所属結社の誤りにつきお詫びし改訂版を掲載させて頂きます。

第3回千葉県俳句大賞

- 【応募条件】** 千葉県内に在住し、平成28年12月1日～平成29年11月30日までに刊行した句集より審査します。当協会に加盟されているか否かは問いません。現在当協会の役員をされている方は応募できません。
- 【応募方法】** 自薦、他薦は問いません。千葉県俳句作家協会担当者まで句集と自選20句（自薦・他薦にかかわらず）を添えてお送りください。
- 【応募締切】** 平成29年11月末日（必着）
- 【賞】** 大賞には賞状、記念品、賞金5万円
- 【応募先】** 〒276-0036 八千代市高津 390-211
千葉県俳句作家協会顕彰部「千葉県俳句大賞」担当 村上喜代子 宛
※ 封筒の表に「千葉県俳句大賞応募」と朱書きしてください。
- 【選考委員】** 能村研三 増成栗人 三枝かずを 塩野谷仁 秋尾 敏 村上喜代子
- 【表彰】** 平成30年2月11日（祝日）
新春交流俳句会の席上にて表彰します。

第32回協会賞の作品募集

千葉県俳句作家協会では、県内俳壇の資質向上と県民文化の振興に寄与するため協会賞作品を下記の要領により募集します。奮ってご応募ください。
なお、現在会員でない方は、入会手続き完了後、応募願います。

記

- 募集句数** 20句 新作未発表の作品で「題名」を付す
- 審査料** 3,000円 応募作品に郵便小為替同封のこと
- 締切** 平成29年12月15日（金）必着
- 審査員** 秋尾 敏 川合 憲子 三枝かずを 塩野谷 仁 染谷 卓
田所 節子 能村 研三 増成 栗人 村上喜代子
- 賞金** 3万円
- 発表** 会報「真木」誌上に発表し、総会の席上で賞状・賞金又は賞を授与。
月刊誌「俳句界」に入賞作品を掲載
- 投句先** 〒265-0077 千葉市若葉区御成台3-26-6 石橋方
千葉県俳句作家協会顕彰部協会賞係
※ 封筒表に「協会賞応募」と朱書きしてください。
- 投句用紙** ◇ B4版 400字詰め原稿用紙1枚を使用。
◇ 右欄外に「題名」、末尾欄外に郵便番号、住所、姓号、電話番号、所属、俳歴、年齢を楷書で明記。
◇ 右上欄外に「新仮名遣い使用」或いは「旧仮名遣い使用」と明記。
◇ 会報「真木」181号「協会賞選考過程」を参照。

千葉県俳壇ニユース

千葉県現代俳句協会総会・俳句大会開催

千葉県現代俳句協会の平成二十九年度総会は三月十九日(日)、千葉市文化センターにおいて参加者八十一名、委任状一八七名で定員数を満たし議長に吉岡一三氏を選出し行われた。

来賓に現代俳句協会中村和弘副会長、東京都区山本敏梓総務部長、東京都多摩地区山崎せつ子副会長、神奈川県吉田功会長の各氏をお迎えした。午後から俳句大会が行われた。参加者九十名。

【事前投句(兼題)の部】

千葉県知事賞

切なさの全長である秋の蛇
加藤 法子

千葉県現代俳句協会賞
千葉県現代俳句協会賞

櫓の火をところどころ継いでゆく介護
青木 一夫

千葉県市長賞

炎天を抜け東京を抜けられず
徳吉洋二郎

毎日新聞社賞

秋蝶は無声映画に戻りけり
楠見 恵子

【席題の部 席題「芹」「笑」】

〈入賞者作品〉 (二句の合計点による。掲載句は二句のうち一句)

千葉県現代俳句協会会長賞

芹の水ひらりと跳んで少女羽化
徳吉洋二郎

千葉県教育委員会教育長賞

固まりて芹は芹なり反戦歌
岡田 淑子

千葉県日報社賞

干されれば笑うほかない目刺かな
保坂 末子

〈来賓・会長特選句〉

(中村和弘特選)

固まりて芹は芹なり反戦歌

(山本敏梓特選)

芹を摘む瑞徳国の地平線

(山崎せつ子特選)

胸中に風のひだ寄せ芹を摘む

(吉田 功特選)

芹の水ひらりと跳んで少女羽化

(秋尾 敏特選)

根白草雨がわたしをあたためる

(徳吉洋二郎記)

「鳴」誌通巻六〇〇号記念号刊行

昭和二十三年、田中次郎によって創刊された「鳴」が、本年四月号をもって通巻六〇〇号に達成、同号を記念号として刊行した。慶祝。

口絵の初代主宰午次郎・二代主宰伊藤白潮・代表井上信子三氏による揮毫と、「鳴」の活動が六頁に亘りカラー写真で綴られ記念誌を飾る。

昨年末、井上氏が代表を退任。高橋道子選者が巻頭に「鳴」への思いの深さ、感謝、責務と更なる今後を執筆。鈴木節子、増成栗人、大石悦子、能村研三氏による〈招待作品〉、贈賞作家及び新人賞作家の〈特別作品十句とエッセイ〉、白潮句集より一句鑑賞、同人・会員による〈自選十句集〉、〈鳴俳句巻頭句一覽〉、五〇〇号後の

「鳴」年表等を収載し充実した企画構成にて、二百頁余の大冊の記念号になった。

なお四月二十二日、「通巻六〇〇号記念祝賀会」が、ホテル・ザ・マンハッタンにおいて、来賓を

含め六十名の参加のもと盛大に開催された。

書き写す師の師の句集春の星

高橋 道子 (「鳴」四月号・六月号より)

第一四六回野田俳句連盟春季大会

平成二十九年四月二十三日(日)に野田市興風会館に於いて第一四六回野田俳句連盟春季大会が開かれた。出席者六十六名、欠席投句者二十五名。席題は「浅蜷」。

入賞者 (三句合点) 代表句 ○内は順位

市長賞 折り合ひをつけては離れ花筏 鈴木 岑夫

議長賞 鬱少しなり春泥の半濁き 金田めぐみ

教育長賞 椿落つくつ落ちたら許される 青木 一夫

連盟賞 野に遊ぶもう手をつなぐこともなく 吉田 叔子

⑤ 股ぐらにスカイツリーを浅蜷取る 田村 隆雄

⑥ 夜の浅蜷桶に太平洋を吐く 松澤 龍一

⑦ 翁と曾良旅立つ前の浅蜷飯 藤岡 貞夫

⑧ 花散らぬうちに仏に逢いに行く 野口 京子

⑨ 地球儀をきれいに拭いて卒業す 佐々木幸子

⑩ 星になつて来いよ筒煮えたから 椎名 鳳人

⑪ 虚と実を篩にかけて春惜しむ 栃木 きよ

⑫ 八十八夜近しかさこそ背は動き 伊藤 希眸

⑬ 浅蜷掘るサンバ聞こえるところまで 渡辺 孝夫

⑭ 衣替へ風も着こなす野良育ち 千葉 智司

⑮ 国籍をかくし浅蜷のまかれおり 星野 一恵

⑯ 路の臺古代浅黄の一張羅 小張 直子

⑰ 立つてゐるだけの語りべ大桜 箕輪力オル

⑱ 復興へつばめが地軸立て直す 山中とみ子

①9 ふうらこや君がおとなになってゆく 高野 春子
②0 ふうらこや嫉妬はときに男偏 吉川 弘明
(松澤龍一記)

「原人」誌新主宰に昼間たつお氏

「原人」誌は本年四月をもって、三枝青雲主宰が体調不良により主宰を退かれ名譽主宰に、後任の新主宰に昼間たつお氏が例会で推挙された。看護師のこゑの尖がれる目借時 昼間たつお (「原人」四月号より)

俳人協会千葉県支部 平成二十九年度 総会・俳句大会並びに懇親会開催

俳人協会千葉県支部は四月二十九日、昭和の日に平成二十九年度総会・俳句大会並びに懇親会をホテルプラザ菜の花、三階で開催。本部より俳人協会理事・「馬酔木」主宰の徳田千鶴子先生をお迎えし、会員一、二六名が参集。活気溢れる大会となった。司会は望月百代氏により進行。俳人協会副理事長に就任した能村研三氏の開会の辞、増成栗人支部長挨拶、徳田先生のご祝辞のあと議事に入り、能村氏が顧問に。また俳人協会千葉県支部会報「若潮」の第一号発行の説明があった。

第二十八回俳句大会の司会は佐藤麻績氏。「秋櫻子と葛飾」と題する秋櫻子の孫である徳田先生の講演は、肉親でなければわからぬような生身で感じ取られた言葉で句を紹介され感動的であった。秋櫻子が心がけた事は①一読した時意味がよくわかること②調べがよいこと③一句の内容が十七音

に対して多すぎないことであるという。

続いての俳句大会の表彰は、一〇五七句の応募句から三十八名の選者による特選句が披講された。続いての懇親会は四階の楨の間に移され、仲村青彦幹事の司会で和やかに行われた。

入賞者一覧

- 第一位・俳人協会千葉県支部長賞 (9点・特2) 仏頭のやうな冬瓜もらひけり 原 瞳子
- 第二位・若潮賞 拾うてはやれぬ仔猫に鳴かれけり 鈴木 由江
- 第三位・菜の花賞 着ぶくれて何かといへば仏壇に 湯浅 康右
- 優秀賞 佐保姫の来てある前方後円墳 市之瀬敦子

- 誰よりも大きな返事入園す 渡部 和秋
- 冬ぬくし瓶のふちまでジャム満し 丸澤 孝子
- 秀逸賞 寒林を行く全身を耳にして 大関 靖博
- 舟宿の舟の干さるる小春かな 池田 幸子
- 徳田千鶴子先生特選 仏頭のやうな冬瓜もらひけり 原 瞳子
- 拾うてはやれぬ仔猫に鳴かれけり 鈴木 由江

(川合憲子記)

「初蝶」誌新代表に中山和子氏

「初蝶」誌は小笠原和男主宰の逝去にともない、中山和子氏が代表に就任された。

正月の貌してシヨルダーバックの犬 中山 和子

(「初蝶」四月号より)

千葉県現代俳句協会・春の吟行会 谷津バラ園く谷津干潟を巡る

平成二十九年四月二十九日、七十名の参加を得て恒例の春の吟行会を実施。谷津バラ園・谷津干潟界限を吟行後、船橋市勤労市民センターにて吟行会を開催。午後一時、秋尾会長挨拶で始まった句会は四時に盛会裡に終了した。

一二十位入賞者作品 (二句のうち一句)

- ① 裸婦像の白き孤独やバラの苑 徳吉洋二郎
- ② バラの園いつもあやうい王の首 岡田 淑子
- ③ 水のでつぺん丸まって春なんだ 竹中 華那
- ④ ハンカチの木揺れて遠き日の挫折 下村 洋子
- ⑤ もうすぐ唄ふバラ園のマリア・カラス 高野 春子
- ⑥ 棘みがく時間下さい薔薇蕾 小野 功
- ⑦ 生命の水平世界蟹は行く 松崎あきら
- ⑧ 沈黙の干潟守られているらしい 渡辺 澄
- ⑨ 晩年の出口か干潟満つる音 上野 紫泉
- ⑩ 薔薇いまだ水の音のみたかぶれり 星野 一恵
- ⑪ 薔薇咲けば真砂女の海を近くして 笈沼 早苗
- ⑫ 抜け道は確かある菅昭和の日 小川トシ子
- ⑬ 薔薇がうほみで石の乳房がくすくすたい 秋尾 敏
- ⑭ 白鷺は己の影を啄めり 高橋 健文
- ⑮ 雲が怪しい干潟から鳥の翳 富澤さち子
- ⑯ 薔薇の付度ピカソの絵画黙らせる 諸藤留美子
- ⑰ ぼうたんも崩るる思い出し笑い 寺田美津江
- ⑱ 花は偽り真実は薔薇の棘 田村 隆雄
- ⑲ 噴水はジャズ青臭い小宇宙 中村 武男
- ⑳ 成田発上りの音を吸う干潟 西崎 久男

(徳吉洋二郎記)

柏市俳句連盟 あげぼの山公園吟行会

柏市俳句連盟は、五月十一日(木)あげぼの山農業公園等において、五十六名の参加者を得て吟行会を開催した。

藤岡貞夫会長選(天賞のみ)

(天) 満身で緑うねらす大樺

保坂 末子

松田雄姿顧問選(天賞のみ)

(天) 歳時記にポピーの風を菜とす

石山 幸月

互選三句合点代表句と入賞者

① 緑さすまだ新しき恋の絵馬

茶谷 静子

② 歩くほど若葉になつてゆく私

青木 一夫

③ 葉桜や利根を眼下に一茶句碑

須藤 義紀

④ 歳時記にポピーの風を菜とす

石山 幸月

⑤ 手の平に鼓動の透けり青蛙

齊藤 哲子

⑥ 夏めいて羽根回したき風車かな

田中 春雪

⑦ 飛石の歩幅を拾う日除傘

澤田 寿一

⑧ 満身で緑うねらす大樺

保坂 末子

⑨ 新緑に染むまで座して血を晒す

大園 智子

⑩ 一群のふたり静でありにけり

箕輪力オル

(柏市俳句連盟 鈴木一三報)

流山俳句協会初夏の俳句会

流山俳句協会主催恒例の「初夏の俳句会」は、五月二十八日(日)、流山市生涯学習センターで行われ、流山市および近隣地域の俳句愛好者五十人の参加を得て、和やかに行われた。

投句総数一五〇句の中から、今回選者としてお招きした柏俳句連盟・藤岡貞夫会長と北川会長お

よび参加者の互選により、左記の句が上位に選ばれた。(○内順位)

① 早乙女のまこと大きな塩むすび

大政 建夫

② 噴水の空をくすぐる位置にあり

浪岡 郁子

③ 幾重にも静けさを積む竹落葉

小泉 欣也

一句最高点

早乙女のまこと大きな塩むすび

大政 建夫

北川昭久選

(天) クロールの水しぶき浴び歩行トレ

小橋 登

(地) 銀の腹出刃押し返す初鯉

駒井由美子

(人) 図書館に眼鏡を借りる薄暑かな

松本 玲子

藤岡貞夫選

(天) 御陵の闇のなかより夏の蝶

一木 修典

(地) 雪形の走り初めたる白馬かな

吉良 省三

(人) 古利根や梅雨に朽ちゆく捨小舟

牧添 昌秋

なお、恒例の流山市文化祭参加の「秋の俳句大会」を控えて、当協会に今年度新たに加入した三句会の会員をはじめとし、さらに参加者の輪を広げて行きたい。

(小泉欣也記)

結社賞

平成二十九年年度 雑草三賞

雑草賞 西谷桂子

浮寝鳥いま構想を練る時間

桂子

新人賞 田中伊都子・園田靖子・田勢淑子

喪の道や筑波に張り付く斑雪

伊都子

銀ぶらのあとの白玉裏通り

靖子

虫の音や今日一日の子守唄

淑子

(「雑草」四月号より)

会員著書紹介

●「統 三枝俊徳日記」 三枝一雄 編

当協会の副会長三枝かずを氏(本名一雄)の既刊『三枝俊徳日記』の続編。俊徳は、江戸時代から明治にかけて地域の重鎮として活躍した上総国佐貫藩の藩医。一雄氏は俊徳の玄孫である。本書は二編の構成で、一編は俊徳の記す資料を

翻刻したもの(弟の俊國・俊久の履歴や、俊久家に残された書簡他)、二編は編者の祖母、美和や両親を語る随想、そして夫婦俳句抄等、二七〇頁に収録された貴重な記録誌である。富津市在住。かずさホトトギス会選者、伝統俳句協会会員、千葉県医師会顧問他。夫婦俳句抄より紹介。

満開と見し紅梅にある蕾 かずを 根元まで蓄つけたる濃紅梅 ふみ代

(平成28年10月発行・審書房出版)

●自選句集「竹のこえ」 竹声会 編

君津市糠田を拠点に活躍の結社誌、野口糸朗主宰「竹声会」の会員一人十句選に寸感を記した平成二十八年度の自選句集である。参加者二十二名。主宰が巻頭言「継続考」にて、竹声会創立の糸

静主宰の言葉「俳句は手段品性の向上が目的」を掲げその継続を述べる。写真で年間の活動を綴り、巻末に句会の記録を掲載。人情味溢れる好句集。

霧深み音吸ひ尽くす山の宿 野口 糸朗
世を覗くごと初雪の降り止まず 野口 友子
師に逢へば小春日和の匂ひあり 鈴木 美幸
京言葉のせて風生む絹扇 岳藤千恵子
鶯も祝ふ観音夫妻句碑 伯ヶ部喜久男

(平成29年3月発行・竹声会)

受贈誌より

あびこ(三三〇号)

海よりの風に研がれて野水仙 染谷 卓
いには(六月号)

ふたひらは蝶ひとひらは飛花となる村上喜代子
浮葉(七月号)

縁日を明日に屋台の寺薄暑 大木さつき
沖(六月号)

鉦の刃叩きて入るる忘霜 能村 研三
音信(六月号)

観音の影をうつしてあやめ咲く 白鳥紅星子
かずさホトトギス(五七六号)

自転車置く少年に藤匂ふ 三枝かずを

響焰(七月号)

おぼろ夜の人体模型地震のあと 山崎 聰
草の実(六月号)

刈らずおく吾が心根の花薊 逸見 真三
原人(六月号)

トロッコの直下湧きだす春の雲 昼間たつお
玄瀧(三十二号)

膝送りされて広がる花の宴 森 章
源流(三三九号)

梅開く開かぬ心を持ち歩く 小出 治重
鴻(六月号)

蝌蚪の紐ゆらゆら妻の墓へゆく 増成 栗人
好日(七月号)

胸中の仮想ふるさと籐寢椅子 長峰 竹芳

雑草(六月号)

山笑う猿には猿の好奇心 実梨 繁
鳴(七月号)

林泉の鬩りに吹かれ著我の花 高橋 道子
軸(六月号)

夏野なら羽毛ひとつを浮かせおく 秋尾 敏
新曆(三八〇号)

滴りて蹲踞に足る禅の水 中路 素童
彌祭(六月号)

墓所守るかに夕暮れの余花しろし 本田 攝子
夏日(三二五号)

新樹高しかつて焦がれしタカラズカ 望月 百代
野火(六月号)

少女らのひかがみに夏来りけり 菅野 孝夫
初蝶(七月号)

骨董の壺へ白詰草一本 中山 和子
半島(六月号)

過疎背負い合併校へ入学す 武田 和郎
万象(六月号)

花びらのぶつかり合うて紫木蓮 内海 良太
百鳥(六月号)(さきたま古墳)

古墳より古墳を見やり青き踏む 大串 章
悠(五月号)

風晚夏棚田に寄せる波白し 水見 壽男
遊牧(一〇九号)

白湯冷めてゆく夜なり麦青むなり 塩野谷 仁
ろんど(六月号)

成田屋!の掛け声の欲し梅吹雪 すすき巴里

▼前号「受贈誌より」の訂正。(三枝氏より)

誤 切り口はまだ新しき春の楢 三枝かずを
正 切り口はまだ新しき春子楢 三枝かずを

ひろば

県内吟行地紹介

馬来田の「いつせんぼく」

万葉集に『馬来田の嶺ろに隠り居かくだにも
国の遠かば汝が目欲りせむ(巻十四)』他三首
が収められている里山の馬来田が木更津市にあ
り、その山裾に、ぼくぼくと湧くことから「いつ
せんぼく」と名づけられた小さな泉がある。

朝夕のラッシュ時を除き、一輛車が一時間に
一本、長閑かな田園風景の中を行く。JR木更
津駅から、上総亀山駅へ通する久留里線である。
ゆつくり走って三十分、馬来田駅に到着。

馬来田駅広場に冒頭の一首が刻まれた歌碑が
立つ。この歌碑を含め、万葉集にちなむ歌碑が

八基建立され、それらを巡りながら「いつせん
ぼく」をめざして変化に富んだ径を歩く。

武田川沿を行くと、東歌の「馬来田の嶺ろ」
の稜線がくつきりと見え、万葉人達の生活の空
気感を覚える。その先には小さな田。さらに、
「ハンノ木湿原」には木道が続く。ここまでの
径の周辺には、里山の四季折々の花が咲き、鳥
が鳴き、虫たちが貌を出す。泉川が山裾を流れ、
水音が涼やか。この水は馬来田の水田の用水と
なり、万葉人の齋を湿おしている。

そして、爽やかな竹騒に迎えられ「いつせん
ぼく」に到着。ぼくぼくと砂を噴き上げる清冽
な泉が、約一時間の散策の疲れを癒してくれる。

(滝口 滋子記)

第59回 千葉県俳句大会作品募集 締切迫る!!

○ 招待選者・鳴戸奈菜氏の講演があります

1. 一般の部

- 募集作品** 雑詠 2句1組 (投句作品は、自作で未発表のものに限ります。
投句は何組でも可で、組単位に採点、授賞致します)
- 応募資格** 千葉県内を俳句の活動拠点とされている方。
- 締切** 平成29年7月31日(月)(当日消印有効)
- 出句料** 一組 1,000円 投稿に添付(なるべく定額小為替でお願いします)
- 送付先** 〒276-0046 八千代市大和田新田124-7 門谷 杜人 方
千葉県俳句大会・一般の部事務局 (電話 047-450-7253)
- 招待選者** 鳴戸 奈菜 (俳誌「らん」発行人・現代俳句協会副会長)

2. ジュニアの部

- 募集作品** 雑詠 1句 (投句作品は、自作で未発表のものに限ります)
- 応募資格** 千葉県の小・中学校に在籍の児童・生徒
- 締切** 平成29年7月31日(月)(当日消印有効)
- 出句料** 無料
- 送付先** 〒270-0157 流山市平和台2-10-14 小野 正之 方
千葉県俳句大会・ジュニアの部事務局 (電話 04-7159-5503)

秋季吟行会のご案内

- 日時** 平成29年9月28日(木) 雨天決行
- 吟行地** 市川市行徳界限 ～塩作りと神輿で栄えた天領の町 行徳を歩こう～
午前10時妙典駅改札口付近にお集まりいただいた方は、ボランティアガイド
市川案内人の会の方々が行徳界限を案内して下さいます。
徳願寺・寺町通り、法善寺、中台神輿、常夜灯
- 会場** 市川市行徳文化ホール 大会議室 (市川市末広1-1-48 Tel 047-701-3011)
- 受付** 11:00～12:00 (吟行を済ませてお集まりください)
- 投句** 囀目句2句 **投句締切12:00** 句会開始13:00 解散予定16:30
- 会費** 1,000円 昼食は各自でお取りください
- 表彰** 1位～15位
- 申込み** 葉書にて住所、氏名、電話番号を明記し **9月10日(日)までに** お申し込みください。
- 申込み先** 〒277-0827 柏市松葉町4-7-2-305 Tel・fax 04-7133-7362
荒木 甫方 千葉県俳句作家協会吟行会係宛
- 交通** 地下鉄東京メトロ東西線 行徳駅 下車

平成29・30年度
千葉県俳句作家協会役員

- 会長 能村 研三
 - 副会長 三枝かずを 増成 栗人
 - 理事 塩野谷 仁
 - 副理事長 秋尾 敏
 - 事務局長 川合 憲子
 - 事務局次長 田所 節子
 - 事務局次長 加藤 峰子*
 - 事務局次長 中村 世都* (会計)
 - 会報編集長 石井紀美子
 - 監事 荒木 洋子 染谷 卓* 外丸 和弘
 - 理事 荒木 甫 石橋みちこ 小野 正之
 - 川崎 直子 北川 昭久 楠原 幹子
 - 倉岡 けい 三枝 青雲 佐藤 映二◎
 - 菅谷たけし すぎき巴里 高橋 健文◎
 - 谷本 元子 平岡 育也◎ 藤岡 貞夫
 - 細根 葉 前北かおる◎ 松本よし彦
 - 村上喜代子 望月 百代◎ 門谷 杜人◎
 - 顧問 今留 治子 小川 恭生 益田 清
 - 松山 足羽◎ 水見 壽男 三苫 知夫
 - 実籾 繁* 村山さとし
 - 参与 岡田 治子 片山 依子* 久保 砂潮*
 - 平川 常廻 森沢 照子
- (◎印は新役員、*は新任)

新入会員一句

星飛ぶや花の匂ひのするタオル 望月 百代
 半世紀前はこなひだ秋扇 高橋 道子
 妻がゐて子等ゐて地雷なき青野 石田きよし
 浜昼顔一日の命謳歌せり 平野 都
 この星に産まれて生きて星月夜 小川 笙力

会費納入のお願い

本号に、個人別年会費納入状況を同封しましたのでご確認ください。二十九年年度までの年会費未納の方は、協会の円滑な運営のため、お早めの納入をお願い致します。
 なお、事務局の会計が染谷卓より、中村世都に替わりました。(振替口座は変わりません)
 今後共よろしくお願い致します。
 郵便振替の口座番号は次のとおりです。
 振替口座 〇〇一五〇一六―三三三三四四

広告募集のお知らせ

「真木」掲載の広告を募集します。
 お申込みお問合せは左記へお願い致します。
 〒二七〇一〇三三

流山市野々下五―八八―一五
 千葉県俳句作家協会・広報部 北川昭久宛
 電話〇四一七―四三三―〇三三二

事務局日誌

- ◆第一回理事会 (出席者二十七名)
 日時 4月30日(土) 14時から16時
 会場 千葉市「ホテルプラザ菜の花」
 議事 1 協会設立45周年記念俳句会・祝賀会報告
 2 総会・俳句会・懇親会について
 3 千葉県俳句大賞・協会賞の贈賞式について
 4 平成29年度第59回千葉県俳句大会について
 5 秋季吟行会について
 6 会報「真木」一八二号について
 7 事務局報告、その他
- ◆第二回理事会 (出席者二十七名)
 日時 6月17日(土) 10時30分から12時30分
 会場 千葉市「ホテルプラザ菜の花」
 議事 1 総会・俳句会・懇親会の報告
 2 千葉県俳句大賞・協会賞贈賞式報告
 3 小委員会の報告
 4 千葉県俳句大賞・協会賞について
 5 平成29年度第59回千葉県俳句大会について
 6 秋の吟行会について
 7 会報「真木」一八二・一八三号について
 8 事務局報告、その他

会員異動

新会員
 望月 百代 (松戸市) 高橋 道子 (千葉市)
 石田きよし (柏市) 平野 都 (富津市)
 小川 笙力 (成田市)

謹記

佐藤 泰之 片山 依子
 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。千葉県俳句大会の締切が間近です。ご応募をお待ちしています。(紀)

千葉県俳句作家協会 祝45周年

俳誌 **あびこ** 主宰 染谷 卓

誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ケ戸二八五

TEL 〇四一七二八二一四四四一

郵振替 〇〇一〇〇一四一八九〇七四

あびこ俳句同好会

一度きりの今を楽しむ

いには

主宰 村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代 1年 12,000円(月刊)
半年 6,000円 見本誌 500円

— いには俳句会 —

〒276-0036 千葉県八千代市高津 390-211

電話 047-458-1919
Fax 047-458-1895
振替 00280-9-131469

HP検索: いには俳句会

現代俳句同人誌 師系 金子兜太

遊牧 代表 塩野谷 仁

同人費 一年 二〇〇〇〇円
誌友費 一年 六〇〇〇〇円

〒273-0033 船橋市本郷町五〇七-二二二〇七

電話 〇四七三三六-〇八一
FAX 〇四七三三-五七七三八

遊牧俳句会

心を満たす俳句

鴻 koh

「鴻」俳句会

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二丁目一六谷口方

電話 〇四七三三六三三四五〇八
FAX 〇四七三三六六一五一一〇

◆誌代/年間 二二,〇〇〇円

主宰 増成栗人
師系 角川源義 吉田鴻司



創刊 昭和23年

原人

伝統俳句に現代の詩情を

名誉主宰 三枝 青雲
主宰 昼間たつお

誌代 一年 二二,〇〇〇円

発行所 原人社

〒260-0824 千葉市中央区浜野町四〇七十六
TEL/FAX 〇四三二二六五四三三三
振替口座番号 〇〇一七〇一四一六四八五九七

人間の総量

鳴

創刊 田中次郎
再刊 伊藤白潮
選者 高橋道子

誌代 一ヶ月 一,〇〇〇円(送料共)
一年 一二,〇〇〇円

〒277-0827 柏市松葉町四七二-三〇五

荒木甫方 鳴発行所

電話 〇四七三三三三七六三二
振替 〇〇一八〇一四一六一五七二
<http://shigi-haikukai.com/>

月刊俳誌

沖 おき

俳句ルネッサンス

主宰 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/15,600円
半年/7,800円
見本誌 1冊 800円

沖発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振替 00170-6-161552

創刊 50周年

軸

軸俳句会

主宰 秋尾 敏

〒278-0005 野田市宮崎95-4

電話 04-7122-3921
Fax 050-5552-9110

82円切手3枚で見本誌贈呈

創刊二十五周年
俳句文芸の真・新・深を志す

ろんど

創刊 鳥居おさむ
主宰 すぎき巴里

誌代 一年 二二,〇〇〇円

〒262-0042 千葉市花見川区花島町四三二一〇

ろんど発行所

電話・FAX 〇四三二二五八-〇一一
本部 〒167-0023 東京都杉並区上井草二二八二
振替 〇〇一五〇九七〇二二〇七